徳川美術館 プレスリリース
２０２２年８月

徳川美術館
THE TOKUGAWA ART MUSEUM

展覧会概要

室町時代頃から、茶の湯道具や刀剣などを主として、名の知られた優品は「名物」と呼ばれるようになりました。名物の条件には、そのものの魅力や世間で有名であることのみならず、豊臣秀吉などの戦国武将や千利休などの茶人といった歴史的人物によって有されていたこと―由緒―に重きが置かれていました。

江戸時代になると、名物の多くは各大名家によって収蔵され、また重大な局面での贈答や茶会で用いられることで、大名家の家格をも象徴するようになります。さらに『玩貨名物記』や『享保名物帳』などの書物によって、名物が一覧に集約・刊行されると、名物は不動の宝物のごとく扱われるようにもなりました。

本展は、尾張徳川家が収蔵した茶の湯道具と刀剣を中心として、名だたる名物の数々をご覧いただくとともに、その展開をたどります。

展覧会基本情報

◆展覧会名　秋季特別展　名物－由緒正しき宝物－

◆会　　場　徳川美術館 本館展示室・名古屋市蓬左文庫展示室

◆会　　期　2022 年 9 月 17 日（土）～ 11 月 6 日（日）
※前期日程 9 月 17 日（土）～ 10 月 16 日（日）　後期日程 10 月 18 日（火）～ 11 月 6 日（日）

◆開館時間　午前 10 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

◆休 館 日　月曜日（但し、9 月 19 日（月・祝）/10 月 10 日（月・祝）は開館、翌 9 月 20 日（火）・10 月 11 日（火）は休館）

◆観 覧 料　一般 1,400 円　高・大生 700 円　小・中生 500 円
※ 20 名様以上の団体は一般 1,200 円　高大生 600 円　小中生 400 円
※毎週土曜日は高校生以下無料

◆主　　催　徳川美術館　名古屋市蓬左文庫　中日新聞社　日本経済新聞社

◆協　　力　名古屋市交通局

プレス内覧会

2022 年 9 月 16 日（金）午後 1 時 30 分～ 2 時 30 分

会場：徳川美術館講堂
内容：展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

第1章　名物の源流

古来、優れた器物は固有の名をつけられ、他の器物と区別されてきた。その起源は神話にまで遡り、「八咫鏡」「八尺瓊勾玉」「草薙剣（天叢雲剣）」がつとに知られる。平安時代には、「玄象」や「無名」といった天皇の楽器、「小烏丸」「童子切」などの平家・源氏の宝剣の存在が確認できる。

さらに、世に知られた優品には、「名物」という称号も冠されてきた。平安時代頃には、優れた馬は「名馬」、楽器は「名器」などと呼ばれ、同時代の説話集で天永２年（1111）頃までに成立した『江談抄』には、「名物」という語が確認できる。室町時代に下ると、刀剣や興隆した茶の湯の道具にも、「名物」が散見されるようになる。「名物」は、もともと天皇家や将軍家の所有品である「御物」やそれに準ずる品に冠されていたが、同等の鑑賞性や経済的価値を持つ品にも付されていくようになった。

重要文化財　太刀　号 獅子王
伝源頼政・斎村政広・徳川家康ほか所持
東京国立博物館蔵

『平家物語』には、平安時代後期の武将・源頼政が鵺と呼ばれる怪物を退治し、天皇から「獅子王」を賜ったと語られている。

史料によると、本刀は豊臣秀吉の家臣の所持刀であったが、慶長５年（1600 年）、徳川家康に初めて拝謁した土岐頼次（1545 ～ 1614）が、頼政の子孫であるとして家康より賜ったという。頼次の後も本刀は家宝として土岐氏に伝来し、明治 15 年（1882）に明治天皇に献上された。

第2章　名物刀剣

名物と称される刀剣は、江戸時代中期の『享保名物帳』において網羅的にまとめられた。『享保名物帳』は、室町時代から刀剣の研ぎや鑑定を生業としてきた本阿弥家の記録をもとに編纂され、八代将軍徳川吉宗（1684 ～ 1751）に提出されたと考えられている。現在では、『享保名物帳』に掲載される刀剣を狭義に「名物」と呼ぶ。

『享保名物帳』に記載される名物刀剣は、南北朝時代以前の名工による出来のよい品で、固有の名をもち、かつての天下人や著名な武将たちが所有したなどの由緒をもつ。これらの条件を満たす名刀は、すでに室町時代から重視されており、織田信長（1534 ～ 82）や豊臣秀吉（1536 ～ 98）らの天下人もこぞって収集していた。武家や町人のもとにあった名刀は江戸時代前期頃までは贈答品とされたが、『享保名物帳』編纂の頃には次第に徳川将軍家や一部の有力大名家などへ集約されていた。尾張家でも名物刀剣は門外不出の扱いとなり、再び世に出るのは幕末期のことであった。

ここでは、「将軍と天下人の所持刀」「名刀の焼失」「家宝となった名物刀剣」以上３つの切り口から名物刀剣を紹介する。

重要文化財
脇指　無銘 貞宗　名物 物吉貞宗　および付属品
徳川家康・徳川義直（尾張家初代）ほか所持
徳川美術館蔵

『享保名物帳』の伝本の一つ『名物扣』（島根・和鋼博物館保管）によれば、命名したのは尾張家２代光友（1625 ～ 1700）と記録されている。光友は祖父・徳川家康所縁の本刀を重視し、儀式の折には必ず懐剣し、また隠居の折にも３代綱誠へ本刀を譲らず手元に残していた。隠居後も権力を維持した光友のこうした行動によって、本刀の価値は高められていき、光友歿後には本刀は家宝の筆頭とみなされ、権力の象徴となった。

重要文化財
刀　金象嵌銘 義弘 本阿（花押）　本多美濃守所持　名物 桑名江
本多忠政（伊勢桑名藩２代）ほか所持
京都国立博物館蔵

茎に金象嵌で本阿弥光徳（1554 ～ 1619）が郷（江）義弘の作と鑑定したことを記し、併せて桑名藩主本多忠政（1575 ～ 1631）の所持品である旨を表している。ここから、「桑名江」と呼ばれ、名物に加えられている。義弘は吉光・正宗と並ぶ三大刀工とされ、江戸時代には高く評価されていた。

公開期間：9 月 17 日～ 10 月 16 日

第3章　名物茶の湯道具

名物茶の湯道具が文献に登場するのは室町時代頃からである。16 世紀には器種や所蔵者別に名物茶の湯道具を列記した、いわゆる「名物記」がつくられるようになる。16 世紀半ば過ぎには織田・豊臣政権のもと、名物茶の湯道具は、堺や京都・博多の町人から収集されるとともに、和睦交渉や家臣への恩賞にも用いられ、政治的な価値が付与された。

江戸時代になると、名物茶の湯道具の多くは各大名家によって収蔵され、また将軍の御成や家督相続といった重大な局面での茶会や贈答に用いられることで、大名家の家格をも象徴するようになる。しかし、17 世紀末から 18 世紀初頭にかけて将軍家や大名家の儀礼と贈答の規模が経済的な事情から縮小されていく中で、従来の名物茶の湯道具は各家で秘されることとなった。しかし、江戸時代中期以降には新たな名物記が編まれ、名物茶の湯道具は拡大・再生産されていった。

この章では室町・桃山時代、江戸時代初期、江戸時代後期、近代と時代を区切り、それぞれの時代での名物の在り方を考察する。

重要文化財
唐物茶壺　銘 松花　大名物
珠光・北向道陳・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康ほか所持
『山上宗二記』ほか所載
徳川美術館蔵

現存する茶壺の中で、茶会記や軍書などの記録に最も頻繁に登場する名茶壺である。『山上宗二記』では「松嶋」「三日月」（ともに本能寺の変で焼失）と並んで三大名物の茶壺とされている。「松花」は、いつ頃か未詳なものの、茶を詰めた際の紙封がなされたままで、中には茶が詰まったままであることも史料的に貴重である。

千利休竹茶杓　銘 泪　大名物
古田織部・徳川家康ほか所持
『玩貨名物記』『古今名物類聚』ほか所載
徳川美術館蔵

利休の茶杓として最も名高い品で、『玩貨名物記』の記載から、古田織部が所持していたとされる。天正 19 年（1591）2 月、豊臣秀吉に切腹を命ぜられた利休が、自ら削って最後の茶会に用いた茶杓で、茶会後に織部に与えられ、織部はこの茶杓用に長方形の窓をあけた筒をつくり、その窓を通してこの茶杓を位牌代わりに拝んだ、などとも語られるが、史料的な裏付けに乏しく、銘から連想された近代の創作の可能性もある。

茶杓は、櫂先が中央に一本の溝が走る一本樋である点や、腰が節の高い竹を用いて裏刳りを深く入れた蟻腰である点など、利休の茶杓の特徴を完備している。全体的に慎ましやかながらも重厚感を備えた名品である。

大井戸茶碗（龍光院井戸）　名物
伝千利休・津田宗及所持
『中興名物記』ほか所載
大徳寺 龍光院蔵

『中興名物記』の記載から千利休・津田宗及という二人の大茶人が所持していたことがわかる。

朝鮮半島で作られたいわゆる高麗茶碗の一種、井戸茶碗の中でも、特に大ぶりな種を日本の茶人たちは大井戸と呼んで愛玩してきた。本碗も堂々とした姿で、控えめに削られた高台際には大井戸の魅力である梅花皮（釉薬の縮れ）が見られる。釉薬全体に細かな貫入が入っており、さらに全体におおきな雨漏り（滲み）が大きくあらわれているのが、一番の見どころとなっており、高台際まで流れた白い長石釉が景色を加えている。

展覧会関連イベント

◆特別講座　「問い直す名物刀剣のイメージ」

講　師：　東京国立博物館　主任研究員　酒井元樹氏
日　時：　2022 年 10 月 1 日（土）
　　午後 1 時 30 分～ 3 時（開場：午後 1 時）
会　場：　徳川美術館 講堂
定　員：　60 名（事前申込制、締切り済）
参加費：　2,000 円（入館料は別途必要）

◆トクガワナイトミュージアム ver.5

少人数でゆっくりと鑑賞をお楽しみいただける夜間開館を実施いたします。展覧会担当学芸員による解説と、参加者限定のオリジナルサコッシュのおみやげ付。

日　時：　2022 年 10 月 1 日（土）・2 日（日）17 時 30 分～ 20 時
定　員：　各日 60 名　（最少催行人数 30 名）
料　金：　6,600 円（税込）
申込方法：オンラインチケット　購入先着順　https://www.e-tix.jp/tokugawa-art-museum/
発売日：　10 月 1 日分　8 月 16 日（火）10:00 ～　（完売）
　　10 月 2 日分　8 月 30 日（火）10:00 ～

◆土曜講座「名物とは何か？」

講　師：　徳川美術館　学芸員　加藤祥平
日　時：　2022 年 10 月 29 日（土）
　　午後 1 時 30 分～ 3 時（開場：午後 1 時）
会　場：　徳川美術館 講堂
定　員：　60 名（事前申込制、締切り済）
参加費：　800 円（当日空席が出た場合のみ先着にて受付・入館料は別途必要）

視聴者・読者プレゼント提供

秋季特別展「名物－由緒正しき宝物－」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。
画像を 1 点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会の御招待チケット（非売品）を、1 媒体 5 組 10 名様分をご提供いたします。

お問い合わせ　取材は随時お受けいたします

徳川美術館
The Tokugawa Art Museum

〒 461-0023　名古屋市東区徳川町 1017
TEL：052-935-6262（10 時～ 17 時受付）
　　052-935-8222（営業時間外受付）
FAX：052-935-6261

[報道関係対応窓口] 徳川美術館 管理部
吉川 由紀　yuki@tokugawa.or.jp
竹内 大知　d.takeuchi@tokugawa.or.jp

徳川美術館　広報宛　FAX：052-935-6261

ご希望画像の□に✓を入れて
お送りください。

秋季特別展　名物－由緒正しき宝物－
広報画像申請書　使用期間：～ 2022 年 11 月 6 日

徳川美術館
THE TOKUGAWA ART MUSEUM

□

①　※②と同一作品です
重要文化財
唐物茶壺　銘 松花　大名物
珠光・北向道陳・織田信長・
豊臣秀吉・徳川家康ほか所持
南宋～元時代　13 ～ 14 世紀
徳川美術館蔵

□

②　※①と同一作品です
重要文化財
唐物茶壺　銘 松花　大名物
珠光・北向道陳・織田信長・
豊臣秀吉・徳川家康ほか所持
南宋～元時代　13 ～ 14 世紀
徳川美術館蔵

□

③千利休竹茶杓　銘 泪　大名物
古田織部・徳川家康ほか所持
桃山時代　16 世紀
徳川美術館蔵
（公開：10 月 18 日～ 11 月 6 日）

□

④重要文化財
太刀　号 獅子王
伝源頼政・斎村政広・徳川家康ほか所持
平安時代　12 世紀
東京国立博物館蔵

□

⑤重要文化財
脇指　無銘 貞宗　名物 物吉貞宗
南北朝時代　14 世紀
徳川美術館蔵

□

⑥※単独不可。⑤と必ずセットでご使用ください。
重要文化財
脇指　無銘 貞宗　名物 物吉貞宗　および付属品
徳川家康・徳川義直（尾張家初代）ほか所持
南北朝時代　14 世紀
徳川美術館蔵

使　用　媒　体

放送日・発売日

プレゼント提供　　希望する　・　希望しない

貴　　社　　名

ご 担 当 者 様

データ送付先アドレス

ご 連 絡 先 電 話 番 号

[ご利用にあたっての注意事項]

- 画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- 部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- 二次利用不可です。
- 画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- 内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ご掲載誌、DVD 等を 1 部「徳川美術館　管理部　広報宛」でお送りください。

徳川美術館
The Tokugawa Art Museum
〒 461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL：052-935-6262（10 時～ 17 時受付）
052-935-8222（営業時間外受付）
FAX：052-935-6261
担当：吉川　yuki@tokugawa.or.jp
竹内　d.takeuchi@tokugawa.or.jp